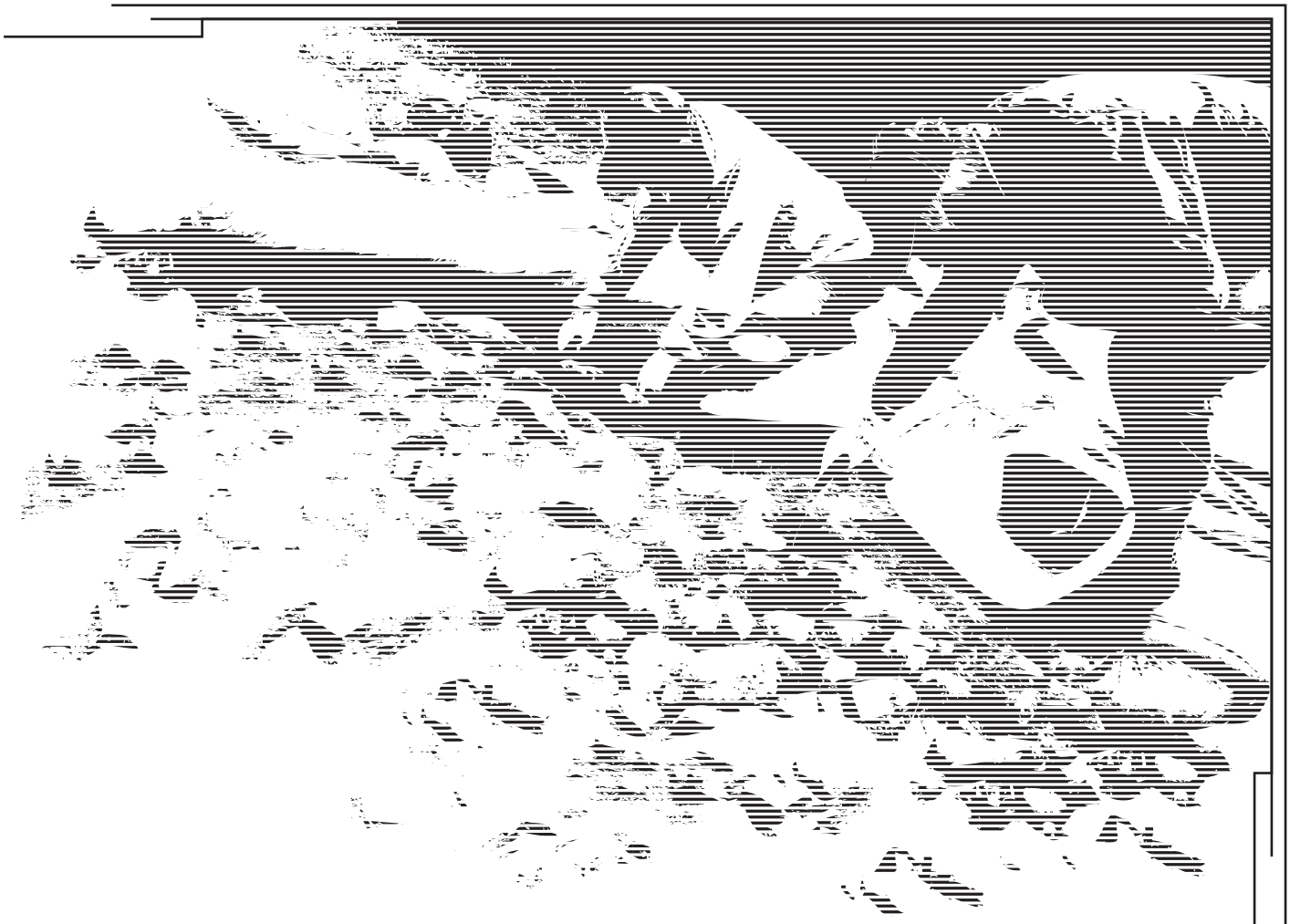


発掘された松本2021

松本市遺跡
発掘報告会

松本市教育委員会

YouTube 松本市
公式チャンネル

レジュメ
（松本市 HP）

【 文化財課 SNS 】

Facebook

Instagram

発掘された松本 2021

～松本市遺跡発掘報告会～

次　　第

令和３年発掘調査の概要 …… 2 ページ
担当　文化財課　係長　百瀬　耕司

報告その１　平安時代を中心に様々な時代の遺構・遺物を発見！… 6
（県町遺跡第２２次発掘調査）
担当　文化財課　澤柳　秀利

報告その２　中世のまちから江戸時代の武家地へ …… 12
（松本城三の丸跡柳町第６・７次発掘調査）
担当　文化財課　吉澤　せり子

報告その３　外堀に沈む江戸時代の乱杭 …… 18
（松本城外堀跡南外堀第４次発掘調査）
担当　文化財課　原田 健司

報告その４　半世紀ぶりに３世紀のまつもとの王墓の墳丘を探る… 24
（史跡弘法山古墳第３次発掘調査）
担当　文化財課　小山 奈津実

報告その５　波田地区で初 古墳を発見！ …… 30
（真光寺遺跡）
担当　長野県埋蔵文化財センター　春日　皓介

「発掘された松本 2021～松本市遺跡発掘報告会～」は、令和 4 年 2 月 11 日にＭウイング 6 階ホールで開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、会場での開催を取り止め、YouTube での動画配信と、データ・冊子による資料配布に変更しました。

令和３年の調査地点

松本市
女鳥羽川
松本城三の丸跡柳町 第7次
真光寺遺跡
147
梓川
松本城本丸跡 第4次、
松本城外堀跡南外堀4次
松本城
松本IC
松本城三の丸跡土居尻 第14次
県町遺跡 第21次、 22次
19
奈良井川
薄川
弘法山古墳 第3次
田川
考古博物館

令和３年（２０２１年）　埋蔵文化財発掘調査・整理報告書刊行一覧表

令和4年2月1日現在

No.	遺跡・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴・備考
1	松本城三の丸跡柳町第7次	R3.3～10	310㎡	土地開発に先立つ調査	中世・近世	武家屋敷
2	県町遺跡第22次	R2.6～R3.6	1,817㎡	民間による土地利用	弥生時代～中世	集落跡
3	真光寺遺跡	R3.4～12	6,500㎡	松本波田道路改築事業	古墳時代・中世	古墳・火葬施設
4	松本城本丸跡第4次	R3.4～6	14㎡	天守内防災設備設置	近世	城館跡
5	史跡弘法山古墳第3次	R3.6～継続中	50㎡	史跡弘法山古墳再整備事業	古墳時代	古墳
6	県町遺跡第21次 （整理、報告書刊行含む）	発掘：R3.7～8 整理：通年	18㎡	県道拡幅事業	弥生時代～中世	集落跡
7	松本城外堀跡南外堀第4次	R3.8～12	32㎡	史跡松本城南・西外堀整備事業	近世	外堀
8	松本城三の丸跡土居尻第14次	R3.9～継続中	700㎡	都市計画道路（内環状北線）建設事業	中世～近現代	武家屋敷
9	市内遺跡確認調査	通年	—	試掘・立会 （試掘詳細は次ページ）	各時代	試掘
10	松本城三の丸跡土居尻第5次 （整理作業、報告書刊行）	通年	—	都市計画道路（内環状北線）代替地	古代～近世	武家屋敷
11	県町遺跡第16・17次 （整理作業）	通年	—	保育園建設事業ほか	弥生時代・古代	集落跡
12	松本城三の丸跡大名町第3次 （整理作業）	通年	—	基幹博物館整備事業	古代～近世	武家屋敷
13	松本城三の丸跡土居尻第9次 （整理作業）	通年	—	松本城南・西外堀整備事業	中世・近世	武家屋敷
14	松本城三の丸跡土居尻第11次 （整理作業）	通年	—	松本城南・西外堀整備事業	中世・近世	武家屋敷

開発工事等による市内遺跡試掘確認調査一覧（令和３年）										
No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積(㎡)	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
1	個人	小屋南1丁目	個人住宅	8.40	小屋	該当	なし			1月25日
2	個人	小屋北1丁目	集合住宅	8.40	小原	該当	なし			1月29日
3	民間会社	里山辺	宅地造成	10.80	惣社	該当	なし			2月2日
4	個人	里山辺	集合住宅	28.80	惣社	該当	なし			2月9、10日
5	国	新村・和田	道路	47.60	安塚古墳群	近接	なし			2月16、17日
6	国	和田	道路	136.90	安塚古墳群	近接	あり	古墳包含層、古墳	本調査予定	3月8～18日
7	個人	波田	個人住宅	4.00	麻神	該当	なし			4月5日
8	民間会社	里山辺	宅地造成	67.20	惣社・新井	該当	あり	平安時代住居址	記録保存	4月20～22日、5月14日
9	松本市	大手2丁目	土地調査	4.00	松本城跡（総堀）	該当	なし			4月27日
10	民間会社	高宮東	宅地造成	6.00	高宮	該当	なし			5月13日
11	民間会社	梓川梓	宅地造成	10.00	未確認地域		なし			5月20日
12	個人	並柳2丁目	集合住宅	5.93	平畑	該当	なし			5月27日
13	松本市	洞	消防団詰所	6.00	火渡し	該当	あり	須恵器片	現状保存	6月3日
14	個人	原	集合住宅	12.25	杵坂	該当	なし			6月21日
15	民間会社	高宮東	会社施設	14.50	高宮	該当	なし			6月22日
16	松本市	県3丁目	市道歩道	9.00	県町	該当	なし			6月24日
17	民間会社	芳野	構造物敷設	12.00	出川南	該当	あり	古墳住居址	記録保存	6月25日
18	民間会社	芳野	店舗	16.20	平田北	該当	なし			7月6日
19	国	和田	道路	210.60	芝沢、新村・島立条里的遺構ほか	近接	なし			7月8日～9月16日（延べ13日）
20	民間会社	城山	宅地造成	53.00	犬甘城址	該当	なし			8月10日
21	民間会社	島内	宅地造成	8.00	平瀬	該当	なし			8月31日
22	個人	岡田松岡	施設増築	4.00	岡田松岡	該当	なし			9月14日
23	個人	里山辺	個人住宅	13.60	薄町	該当	なし			10月13日
24	松本市	島立	市道拡幅	16.00	新村島立条里的遺構、北栗	該当	なし			10月21日
25	民間会社	芳野	店舗改修	22.78	出川南	該当	あり	古墳包含層、土師器片	記録保存	11月1日
26	個人	岡田町	個人住宅	7.90	火渡し	該当	あり	土師器片	現状保存	11月24日
27	個人	平田西2丁目	個人住宅の離れ	5.40	平田本郷	該当	なし			11月29日
28	個人	新村	宅地造成	20.00	新村・島立条里的遺構	該当	なし			12月3日
29	県	神林	県道改良	17.60	川西開田	該当	あり	時代不明土坑	記録保存	12月9～10日
30	民間会社	出川町	鉄道通信施設	8.00	出川南	該当	なし			12月13日
31	松本市	村井町西1丁目	駅周辺整備	12.00	小屋	近接	なし			12月27日

		今回発表の遺跡年代	松本市内の遺跡や史跡	長野県や全国の遺跡や史跡
旧石器時代	16000 年前			
縄文時代	前 900	真光寺遺跡	川西開田遺跡 (神林) 波田下原遺跡 (波田) 麻神遺跡 (波田) エリ穴遺跡 (内田)	縄文のビーナス (茅野市) 平出遺跡 (塩尻市) 仮面の女神 (茅野市)
弥生時代	前 300 0 200		針塚遺跡 (里山辺) 境窪遺跡 (神林) 百瀬遺跡 (寿) 県町遺跡 (県)	吉野ケ里遺跡 (佐賀県) 芝宮遺跡の銅鐸 (塩尻市) 纏向遺跡 (奈良県)
古墳時代	400 600	弘法山古墳 真光寺遺跡	中山 36 号古墳 (神田) 高宮遺跡 (高宮) 針塚古墳 (里山辺) 平田里古墳 (双葉) 中山古墳群 (中山) 束間行宮 出川南・西遺跡 (出川)	卑弥呼 (～ 248) 森将軍塚古墳 (千曲市) 法隆寺 (奈良県)
奈良時代	710 794		小池遺跡 (寿) 新村遺跡 (新村)	東大寺 (奈良県) 信濃国分寺 (上田市)
平安時代	1192	県町遺跡	下神遺跡 (神林) 埴原の牧 和田太子堂遺跡 (和田) 県町遺跡 (県) 三間沢川左岸遺跡 (和田) 信濃国府 平田本郷遺跡 (平田) 海岸寺遺跡 (入山辺) 海岸寺経塚 (入山辺)	吉田川西遺跡 (塩尻市) 平泉 (岩手県)
鎌倉時代	1334			
建武の新政	1338			
南北朝時代			殿村遺跡 （四賀）	
室町時代		真光寺遺跡	井川城跡 （井川城） 虚空蔵山城 （四賀）	
戦国時代			林城跡 (里山辺)	安土城 (滋賀県)
安土桃山時代	1603		松本城天守	
江戸時代	1868	松本城三の丸跡 柳町 松本城外堀跡 南外堀	松本城外堀跡西外堀 海岸寺遺跡 (入山辺)	姫路城 (兵庫県)
明治・大正 昭和時代				

発掘された松本2021
報事告例 ❶

県町遺跡 第22次発掘調査

ー平安時代を中心に様々な時代の遺構・遺物を発見！ー

澤柳　秀利

1　調査の概要

(1)　遺跡の所在：松本市県１丁目

(2)　原因事業：民間の土地利用

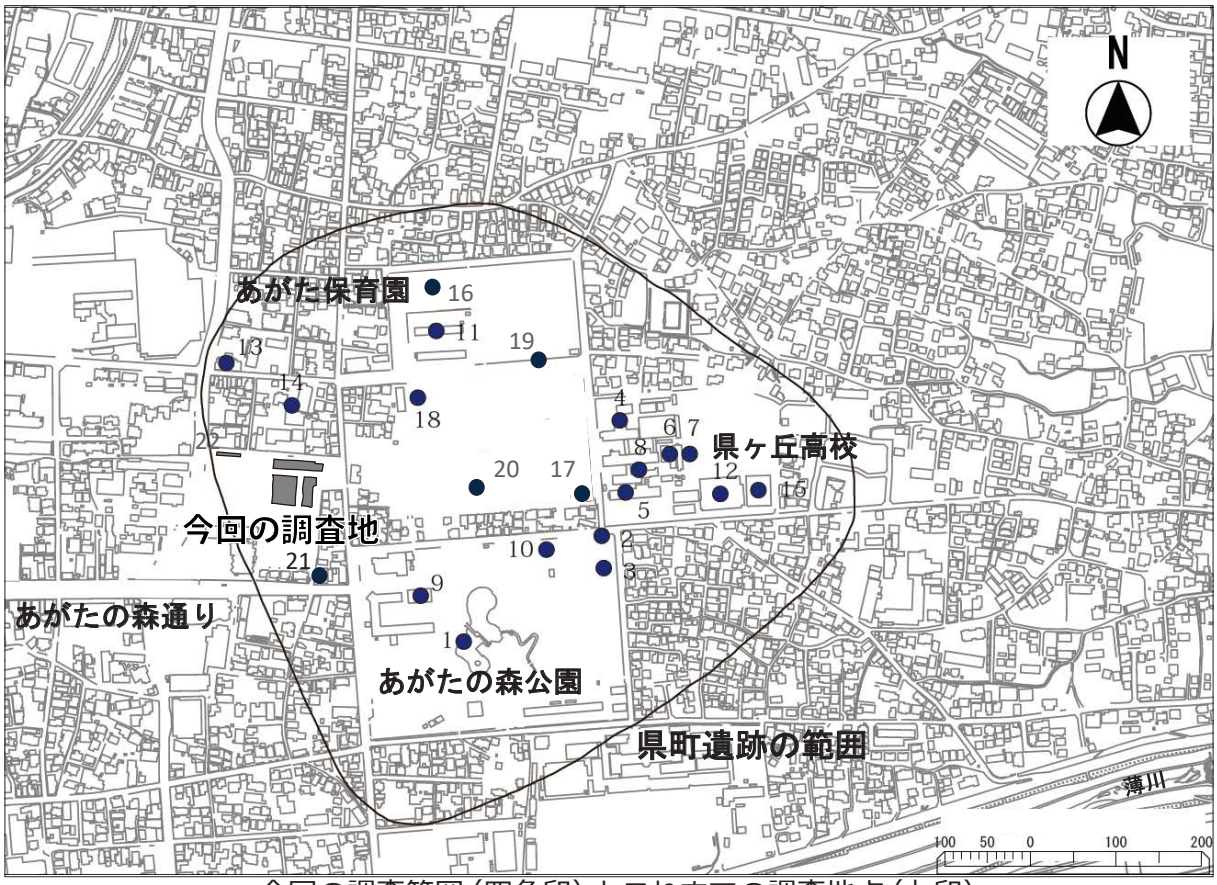
(3)　調査期間：令和２年６月１日～令和３年６月１８日

(4)　調査面積：１,８１７.５㎡

(5)　主な遺構：竪穴住居跡、竪穴状遺構、溝跡、土坑

(6)　主な遺物：土器・陶磁器、石器・石製品、鉄製品、銭貨

※特殊遺物：緑釉陶器、皇朝十二銭（富寿神宝・隆平永宝）、黒曜石製帯飾り



今回の調査範囲（四角印）とこれまでの調査地点（丸印）

2　遺跡の概要

県町遺跡は、薄川扇状地の末端に広がる、弥生時代～平安時代を中心に栄えた大規模集落です。特に平安時代については特殊な遺物が多く出土しており、信濃国府推定地の一つに挙げられています。

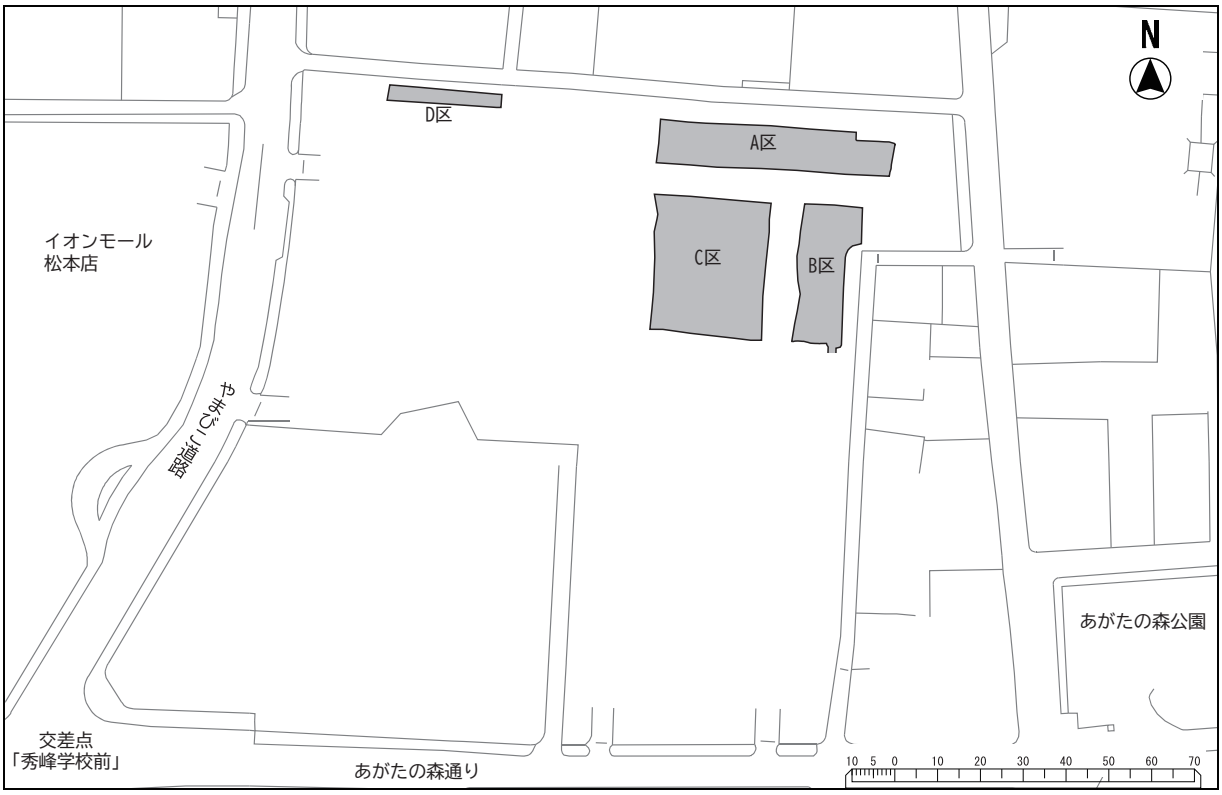
これまで 21 回の調査を実施してきており、その中で見つかった主なものを挙げると、まず遺構では弥生時代・古墳時代・平安時代の竪穴住居跡が 240 軒以上見つかったほか、弥生時代の礫床木棺墓（れきしょうもっかんぼ）や中世の竪穴状遺構が見つかっています。遺物では、各時代の土器・陶磁器の他、特に平安時代の緑釉陶器、中国製磁器、皇朝十二銭、石製や金属製の帯飾りなど、普通の集落ではあまりみられないものが目立って出土しています。これは、集落内に有力者が居住していたことを示すものといえます。

3　調査の成果

⑴　概要

今回の調査地は、県町遺跡の西端に位置します。古墳時代以前の生活面と平安時代以降の生活面の２面を異なる深さで確認し、それぞれ調査しました。

発見された遺構は、調査範囲の北側と南側に集中しており、中央付近では弥生時代以前と考えられる旧流路（北東から南西方向）が見つかりました。また、調査地の西端部では遺構や遺物が極めて希薄になり、遺跡地図のとおり集落の端であることが確認できました。



調査位置図

⑵　古墳時代以前の様子

炉跡（土が赤く焼けている部分）

古墳時代の竪穴住居跡

古墳時代以前の遺構配置図

出土した縄文土器

狭い範囲にまとまって出土した弥生土器

⑶　平安時代以降の様子

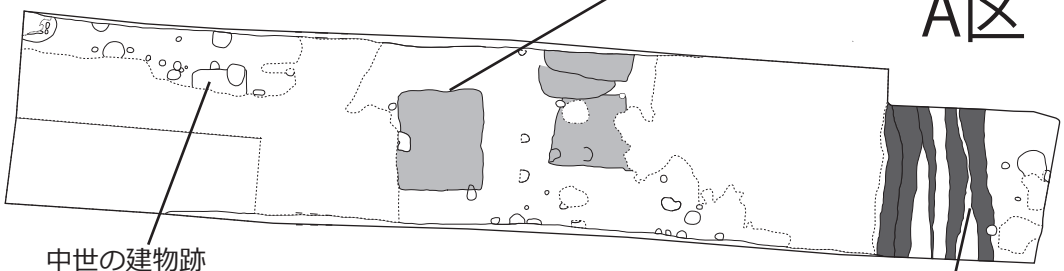
今回の調査で見つかった遺構の多くは平安時代のものでした。後世の開発や薄川の氾濫の影響などのため、保存状態はあまりよくありませんでしたが、竪穴住居跡１２軒や溝跡、土坑などの生活の痕跡を見つけることができました。

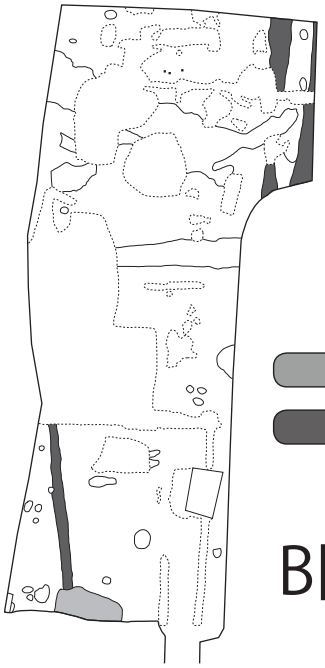
また、出土遺物から中世や江戸時代と考えられる遺構も確認できました。

石組みカマド跡から多量の遺物が出土

平安時代の竪穴住居跡

平安時代遺構の遺構配置図





竪穴住居跡

溝跡・暗渠跡

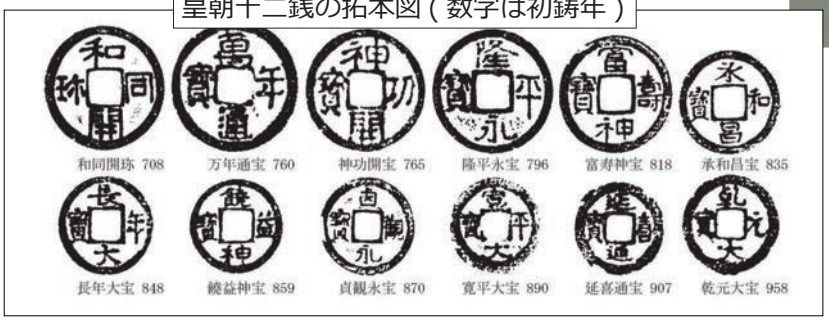
〈皇朝十二銭の出土〉

わが国で鋳造された古代銭貨の総称で、708 年（初鋳年）の「和同開珎」から 958 年（初鋳年）の「乾元大宝」まで 12 種造られました。それ以降、江戸時代の「寛永通宝」が鋳造されるまで、輸入銭に頼っていました。

地方での銭貨の流通量は少なかったとみられ、県内では官衙遺跡や大規模集落などからの出土が大半を占めています。県町遺跡では、これまで 2 点しか出土していません。

出土した「富寿神宝（ふじゅしんぽう）」

皇朝十二銭の拓本図（数字は初鋳年）



出土した「隆平永宝（りゅうへいえいほう）」（「平」の字が見える）

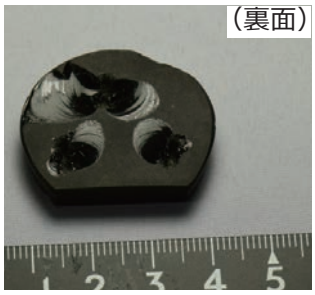
〈帯飾りの出土〉

帯飾りとは、官人着用する朝服につける腰帯の飾りのことです。

市内からは、これまでに 49 点出土しています。その多くが市内有数の大集落跡で出土し、県町遺跡では 6 点を数えます。今回出土した石製帯飾りは、県内では初めてとなる黒曜石で作られたものです。また、全国的にみても数例しか出土例がなく、とても貴重な発見と考えられます。

黒曜石製の帯飾り（表面）

（裏面）



金具を取り付けるための穴が破損している

帯飾りのイメージ

※ 笹間良彦 1992「資料日本歴史図録」から転載

〈中世の遺構・遺物〉

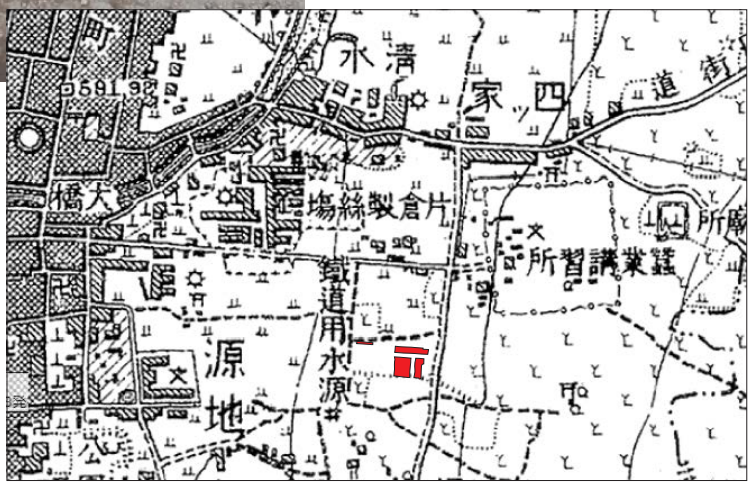
近辺で行われた発掘調査でもの遺構・遺物が見つかっているため、周辺に居住域があったかもしれません。

出土した卸皿（おろしざら）の破片

中世の竪穴状遺構（建物跡）

〈江戸時代の遺構・遺物〉

江戸時代の陶磁器が出土した溝跡や暗渠跡が見つかりました。



右は明治 42 年測量（大正 2 年発行）の陸軍陸地測量部作成の 1:25000 地形図「松本」の一部。今回の調査区は概ね赤い印の場所になり、その周辺には水田が広がっていたことがわかります。

発掘調査区全景（西から県町遺跡の中心方向を望む。奥は薄川と山辺谷）

発掘された松本2021
報告例 ②

松本城三の丸跡 柳町

第６･７次発掘調査

ー中世のまちから江戸時代の武家地へー

吉澤　せり子

1　調査の概要

⑴　遺跡の所在：松本市丸の内８、９

⑵　調 査 目 的：土地開発に伴う緊急発掘調査

⑶　調 査 期 間：令和２年２月～６月（第６次）、令和３年３月～10月（第７次）

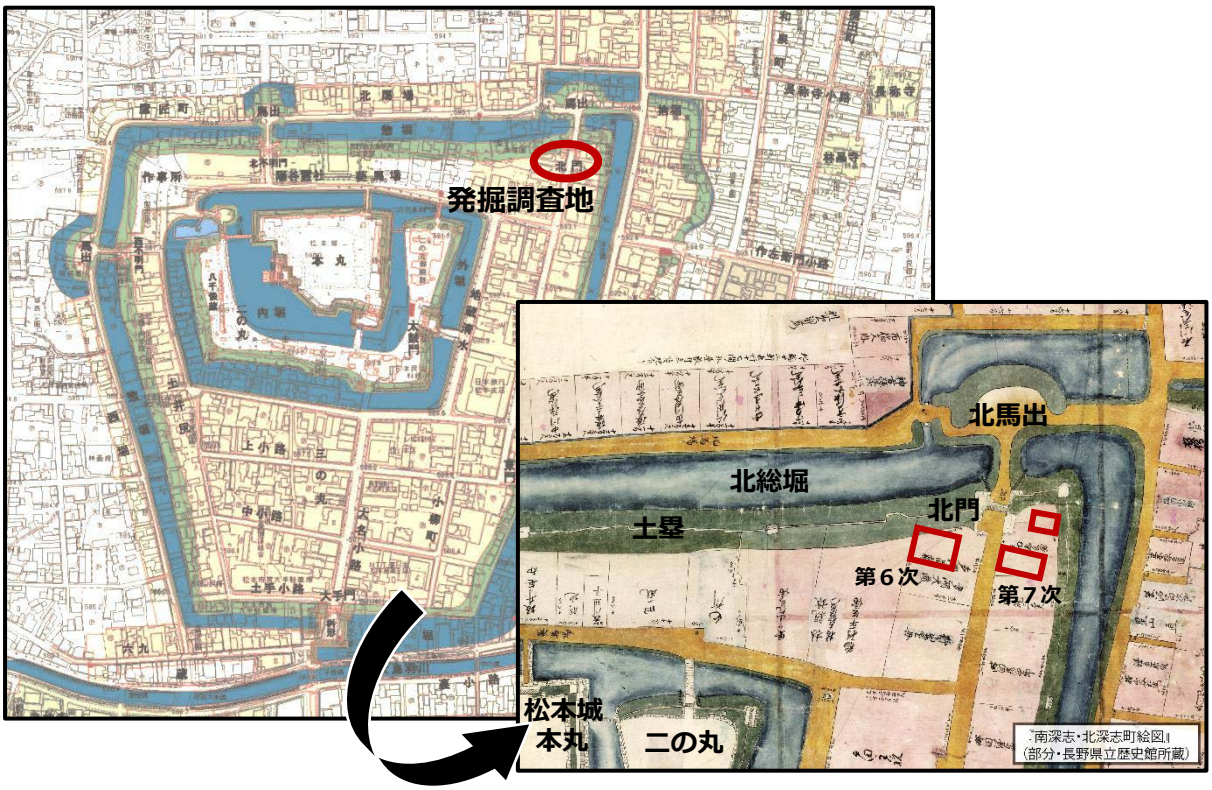
⑷　調 査 面 積：約２３０㎡（第６次）、約３１０㎡（第７次）

⑸　主 な 遺 構：大型土坑（第６・７次）、柱穴・杭跡（第７次）

⑹　主 な 遺 物：「多湖大蔵」刻書、刀、青花、宋銭、荷札木簡（第６次）
下駄、現川焼、内耳鍋（第７次）

2　遺跡の概要

本調査地は、松本城三の丸内に置かれた**武家地**の一つ「柳町（やなぎまち）」に含まれます。ここは松本城**北門**の南側に位置し、北側には**総堀土塁**がかかります。また、中世の柳町は『信府統記（しんぷとうき）』に記された「**市辻（いちのつじ）・泥町（どろまち）**」の推定地にあげられています。



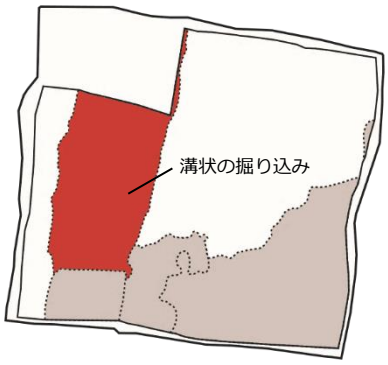
3　調査成果

⑴　大正の大火

ア　溝状の掘り込みと火災層

第７次調査地の南北にかけて、幅約３ｍの**溝状の掘り込み**を確認しました。埋土には**炭**や**焼土**が混ざり、中から**大量の焼けた瓦**が出土しました。

また、炭と焼土を多く含んだ**明治～大正時代の火災層**も確認しました。



図面（第７次一部）

検出のようすと出土した瓦

イ　史料が記す柳町の火災

「大正七年三月廿五日（１９１８年３月２５日）午前十時、大柳町柳の湯より出火、巽（東南）の強風にて同町五十九戸を焼失す。…」　（『松本市史』下巻より）

本調査で確認した火災層は**大正７年の大火**によるものと考えられます。溝状の掘り込みの正体は、火災で焼けた瓦や木材などの**廃棄場**でしょうか…？

⑵　江戸時代の武家地

ア　大型の土坑

調査区の各地で４つの大型土坑を確認しました。規模や出土した遺物から、江戸時代の**武家屋敷につくられた池跡の可能性**も考えられます。

桶を埋めたもの

杭列をもつもの

段差があるひょうたん型のもの

イ　出土遺物

江戸時代の面からは、武士の暮らしぶりがうかがえる遺物が出土しました。

また、第６次調査で出土した「**多湖大蔵**」と刻まれた土製品は、この地に**多湖家**（松本藩主戸田家の家臣）**が屋敷を構えていた**という絵図の裏付けになりました。

刀

下駄

現川焼（うつつがわやき）の茶碗

現川焼は、**元禄４年～寛延元年（1691～1748）頃**の間、肥前国現川村（長崎市現川町）で生産された陶器です。

「南深志・北深志町絵図」（部分・長野県立歴史館所蔵）

「多湖大蔵」刻書

天保６年（1835）の絵図では、第６次調査地の敷地に同じ名前が見られます。

多湖大蔵ってどんな人？

多湖安貞（たこやすさだ）か？文政６年（1823）生まれ。安政５年（1858）多湖安元（やすもと）（昌蔵）から家督を継ぎ、**９代目当主**として明治を迎えました。その後、**明治４年（1871）まで崇教館の教員を務めました。**

多湖家ってどんな家？

調査地の多湖家は、松本藩主戸田家に仕えた多湖家のうち、**医者**や**儒者**（じゅしゃ）を務めた家です。松本藩の儒者は、**藩校崇教館**（そうきょうかん）**の管理や授業、藩主やその子弟の教育など**を行いました。また、多湖家は**藩の書物管理**もしました。

多湖家屋敷の間取り図

庭園には池がありました。第６次調査の大型土坑や溝跡と位置関係がよく似ています。

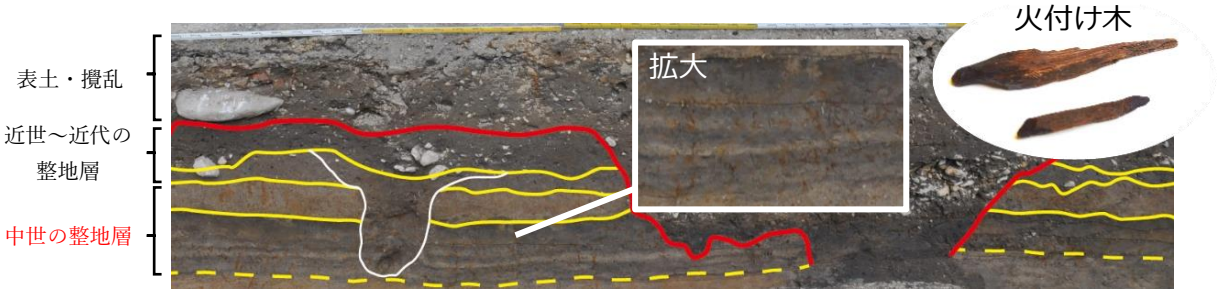
この場所には、**明治維新後**も**大正７年の大火**による屋敷の焼失まで、多湖家の**子孫**の方々が暮らしていました。

⑷　中世のまち

ア　整地のようす

中世の整地面からは**火付け木**や**種子**が出土しました。**祭祀**の痕跡と推測されます。

また、中世の整地層は細かい層を重ねてつくられており、この場所は**丁寧な整地**が施されていたことが分かります。



イ　遺構

①　柱穴

第７次調査では、**様々な種類の柱穴**を複数確認しました。中には柱穴と柱穴の間隔が**１間（180 ㎝）**になるものもありました。柱穴に埋められた**カワラケ（素焼きの皿）**には、**まじないの目的**があったのではないかと考えられます。

礎盤の石を据えたもの

柱の一部が残るもの

正方形のもの

カワラケを埋めたもの

②　杭跡

第７次調査地に**大量の杭跡**を確認しました。**建物など何らかの施設**にかかわるものでしょうか。

検出のようす

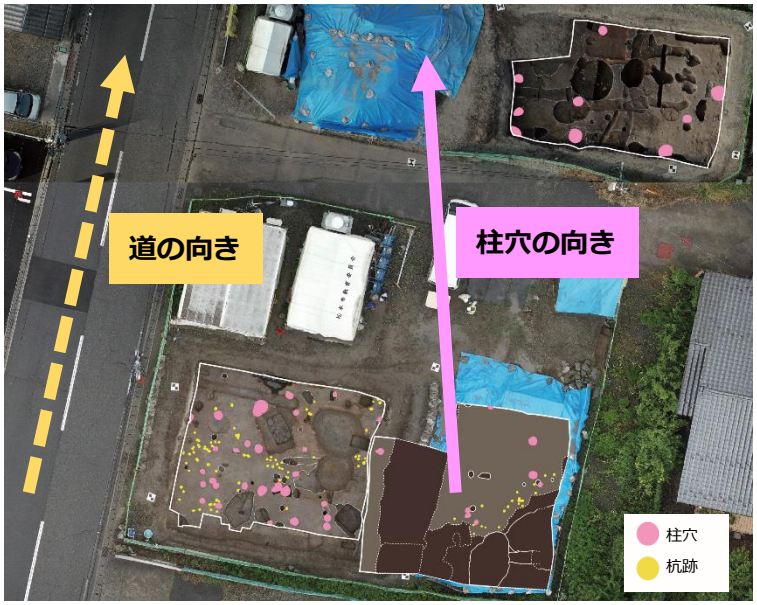
小さな丸印が杭跡です。

柱穴・杭跡の分布（第７次）

現在の道の向きは、江戸時代の絵図とほぼ変わりません。

柱穴が並ぶ向きが、道の向きより西側に振れていることが分かります。中世のまちなみは、江戸時代のものと向きが異なっていたようです。

杭跡は調査区の**南側**に集中しています。



ウ　出土遺物

美濃産の皿や内耳鍋は、**１６世紀**のものと推定されます。１６世紀の松本（府中）では、**武田氏や小笠原氏**が活躍していました。「天下太平」と書かれた碗の底部のみ残る中国産の磁器は、中国からの渡来品で「**青花**（せいか）」と呼ばれるものです。

美濃産の皿

内耳鍋

中国産の磁器（青花）

また、中国の銭貨「**元祐通宝**（げんゆうつうほう）」や**荷札木簡**（にふだもっかん）など、お金や物の流通にかかわる遺物も出土しました。

元祐通宝

荷札木簡

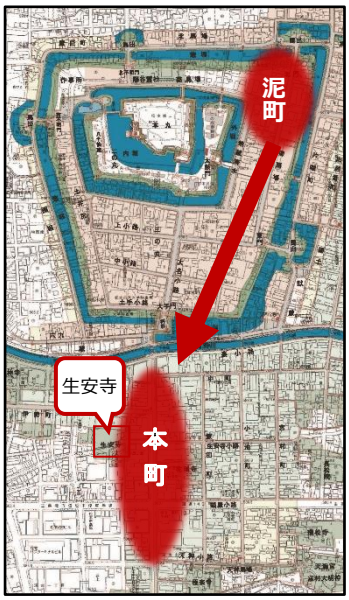
元祐通宝は、中国の北宋で発行された「**宋銭**（そうせん）」です。「元祐」とは、北宋で用いた元号です（1086～1094）。

荷札木簡は、荷物に付けた木の札で、荷物の内容や送り主、宛先などの情報が記されました。

エ　史料が記す中世の柳町

「…天正十三乙酉年（１５８５年）ヨリ今ノ宿城地割シテ、同十五丁亥年（１５８７年）マテニ、市辻・泥町辺ノ町屋残ラズ本町江引移シ、…生安寺浄土宗ナリヲ泥町ヨリ本町江移シ…泥町ノ跡ヲ柳町ト号ス、…」

（『信府統記』「第一　諸城記上」より）



分かること…

① 小笠原貞慶（さだよし）が本格的な松本城下町の形成に取り掛かった**天正１３年～１５年（1585～1587）より前**、柳町があった場所は「**泥町**（どろまち）」と呼ばれていた。

② 泥町には**町屋**や「**生安寺**（しょうあんじ）」という寺院が存在した。

③ 泥町の**町屋・生安寺**は**市辻**（いちのつじ）**とともに本町**（ほんまち）**に移された**。

江戸時代の本町は、商人の町として松本城下町で最も栄えました。

今回の調査で確認した**複数の柱穴や杭跡**は、『信府統記』に記された**「泥町」の痕跡かも**しれません。
出土した遺物から、この地で**物流や人の往来があった**と考えられます。

4　調査のまとめ

⑴　大正の大火

明治～大正時代の面では**焼けた瓦などが埋められた溝状の掘り込み**と、**火災層**を確認しました。これらは『松本市史』が記す**大正７年の大火**によるものと考えられます。

⑵　江戸時代の武家地

江戸時代の面では**４つの大型土坑**を確認しました。武家屋敷の敷地につくられた池跡の可能性も考えられます。

また**第６次調査の「多湖大蔵」刻書や大型土坑**は、絵図との関連がみられました。

⑶　中世のまち

中世の面では**丁寧な整地**や**複数の柱穴・杭跡**を確認したほか、**宋銭**や**荷札木簡**などの物流にかかわる遺物も出土ました。

今まで、文献『信府統記』では柳町付近にあったとされていた中世の「**市辻・泥町**」ですが、今回の調査で初めてその痕跡を得ることができました。

今回の調査は、**近代・近世・中世**３つの時代を通して**史料との結びつき**を得られた発掘調査になりました。

発掘された松本2021
報告例 ③

松本城外堀跡 南外堀

第4次発掘調査

ー外堀に沈む江戸時代の乱杭ー

原田　健司

1　調査の概要

⑴　遺跡の所在：松本市大手３丁目

⑵　調 査 目 的：史跡松本城　南・西外堀整備事業に伴う南外堀跡の確認調査

⑶　調 査 期 間：令和３年 (2021) ８ 月～１２ 月

⑷　調 査 面 積：合計３２．３４１㎡

（調査区① 14.25 ㎡＋調査区② 12.27 ㎡＋調査区③ 5.821 ㎡）

⑸　主 な 遺 構：杭列、石列

⑹　主 な 遺 物：鬼瓦、家紋瓦（離れ六つ星・戸田氏）

2　外堀について

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それらを囲む３ 重の堀（内堀・外堀・総堀）で構成され、その外側には城下町が形成されています。外堀の明確な成立時期は不明ですが、おそらく築城期に一緒に整備されたものと考えられます。古文書等から江戸時代をとおして何度も浚渫（しゅんせつ）（泥さらい）が行われたことがわかっています。そして、明治維新と廃藩置県後、松本城の政庁・軍事的拠点としての役目を終える中で、外堀の一部（南側・西側）が大正８年から昭和初年にかけて埋め立てられ、宅地化しました。現在、埋め立てられた南・西外堀の復元整備に取り組んでいます。

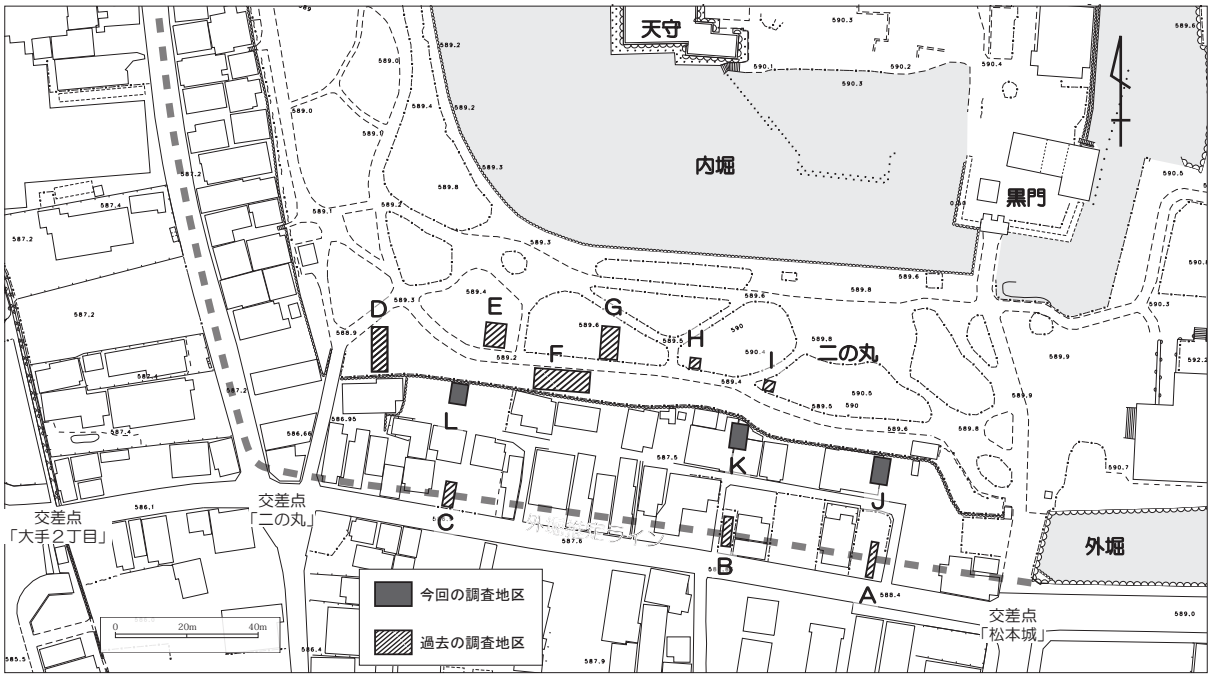


図１　調査地区の位置図

これまでの発掘調査において、三の丸側の境界や二の丸公園内で土塁の盛土を確認をしています。

今回の調査は、南外堀の二の丸側の境界を確認するためのものです。

3　これまでの南外堀跡での発掘調査について

⑴　堀跡（写真１）

平成９年度と１８年度に、外堀の三の丸側の境界を確認するために３カ所（図１のＡ～Ｃ地区）発掘調査が実施されています。Ａ・Ｂ地区の調査では、堀の境界に石垣が組まれていることが確認できました。これは、『享保十三年秋改松本城下絵図』に描かれているとおりであるとわかりました。

⑵　土塁跡（写真２）

平成２９年度に、土塁の裾部の位置を確認するために発掘調査（Ｄ～Ｉ地区）が行われました。特にＩ地区では、南から北へ傾斜している版築土（土を突き固めたもの）が確認でき、二の丸側の土塁の裾部を捉えることができました。

4　今回の発掘調査の成果について

⑴　杭列の出土（写真３～６）

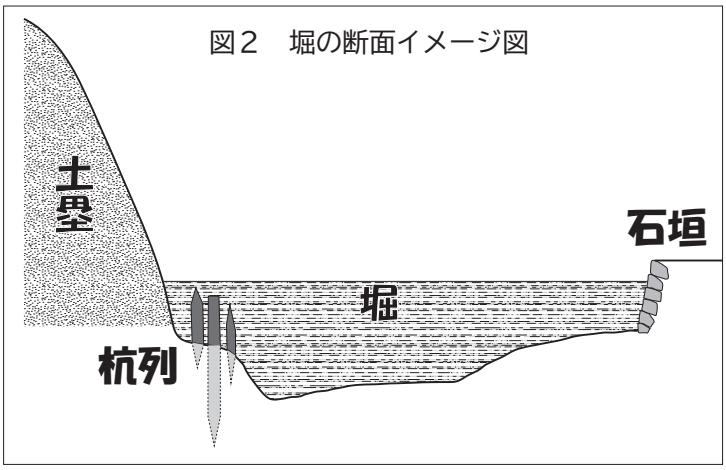


図２　堀の断面イメージ図

Ｊ地区とＫ地区の北端部で、杭列を確認しました。これまで総堀跡や西外堀跡の三の丸側の境界付近で杭列がみつかっていましたが、今回初めて外堀跡の二の丸側でも発見されました。

内側の杭は、細く先端が尖らせてありましたが、中央部は太い材でしっかりと打ち込まれていました。杭の違いは用途の違いに表れていると考えられ、太い杭は護岸（土留め）、細く尖った杭は外的からの防御の性格があったと推測できます。調査区①では、杭を覆うように多量の瓦が出土しました。瓦は、土塁上にあった土塀か、調査区東側にあった南隅櫓に由来する可能性があります。また、Ｋ地区の杭列は南東から北西に斜めに延びており、絵図でみられるとおりお堀の屈曲箇所であることがわかりました。

⑵　石列の出土（写真７）

Ｋ地区で出土した杭列の南側で、石列を確認しました。石列直下に瓦を敷くことで地固めを施し、２段以上石を積んでいることが確認できました。使われている石は、間知石状に加工されているものや野面状（自然礫）のものがみられます。出土遺物から明治時代以降に構築されたものと考えられます。

明治時代から埋め立てられるまでの間、外堀の一部が鯉の養殖池として使われていた

ことがわかっており、石列は養殖池に関係した構造物であると推定されます。

⑶　外堀の幅

享保 10 年（1725）に編纂された『信府統記』によると、水野忠清・忠直時代（17 世紀中頃～ 18 世紀初め頃）の堀の幅（J 地区付近）は、15 間（約 27m、1 間 =1.8m で計算）あると記されています。

『信府統記（第二十三　松本城地形間数記）』より

「*前略～（水野）忠清公ノ時改ノ城図間数～同櫓（南隅櫓）ヨリ西ノ方拾五間～後略*」

「*前略～（水野）忠直公ノ時改城図間数～中櫓（南隅櫓）西拾五間～後略*」

今回の調査成果（J 地区）と過去の調査成果（A 地区）から、南隅櫓の西側での堀幅はおよそ 27 ～ 28m と推定ができ、古文献とほぼ合致していることがわかりました。また、『享保十三年秋改松本城下絵図』（図４）と範囲がほぼ合致することも確認できました。

5　まとめ

⑴　２カ所で南外堀の二の丸側の境界を確認

⑵　境界付近で、総堀と同様に、杭列が設置されていることが判明

⑶　近代、南外堀が埋め立てられる前に、石列が設置されたことが判明

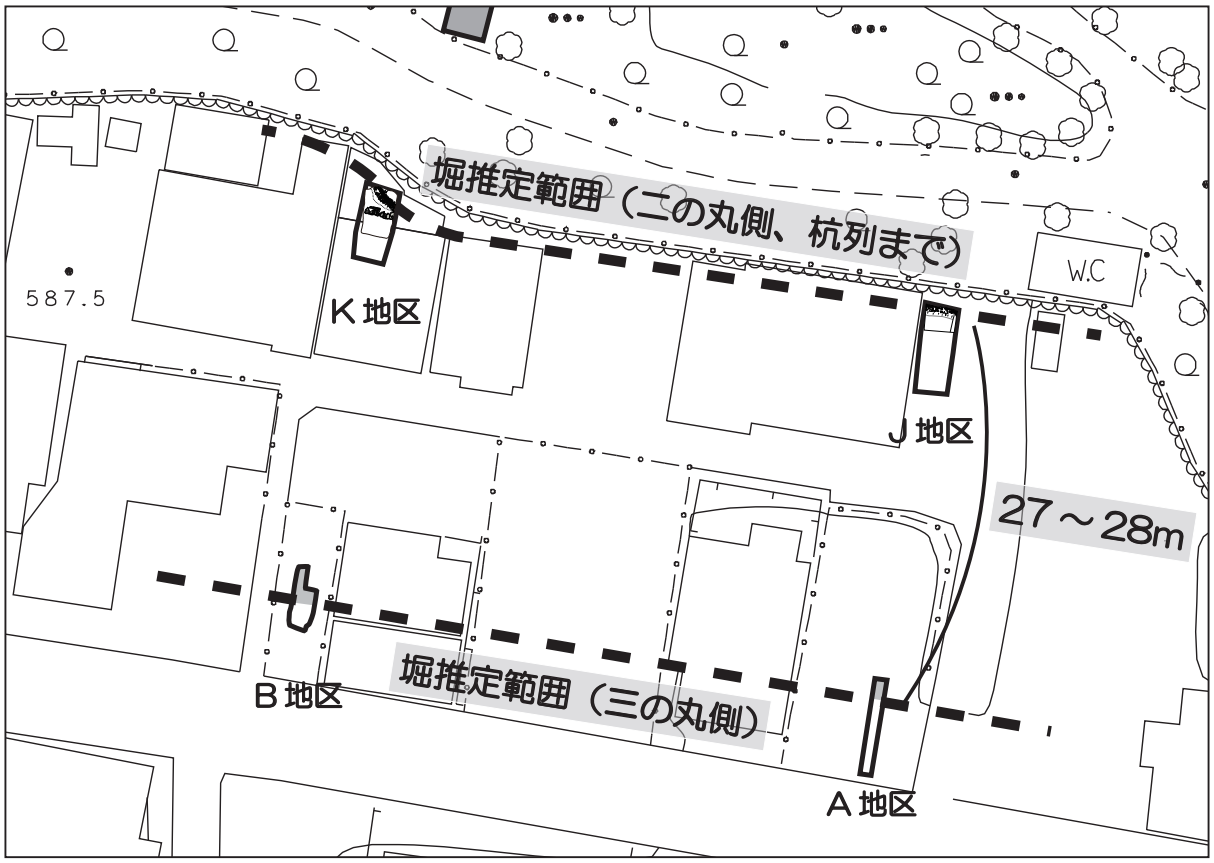


図３　堀の推定規模　ここれまでの調査の成果を合わせると堀の推定範囲がわかります。

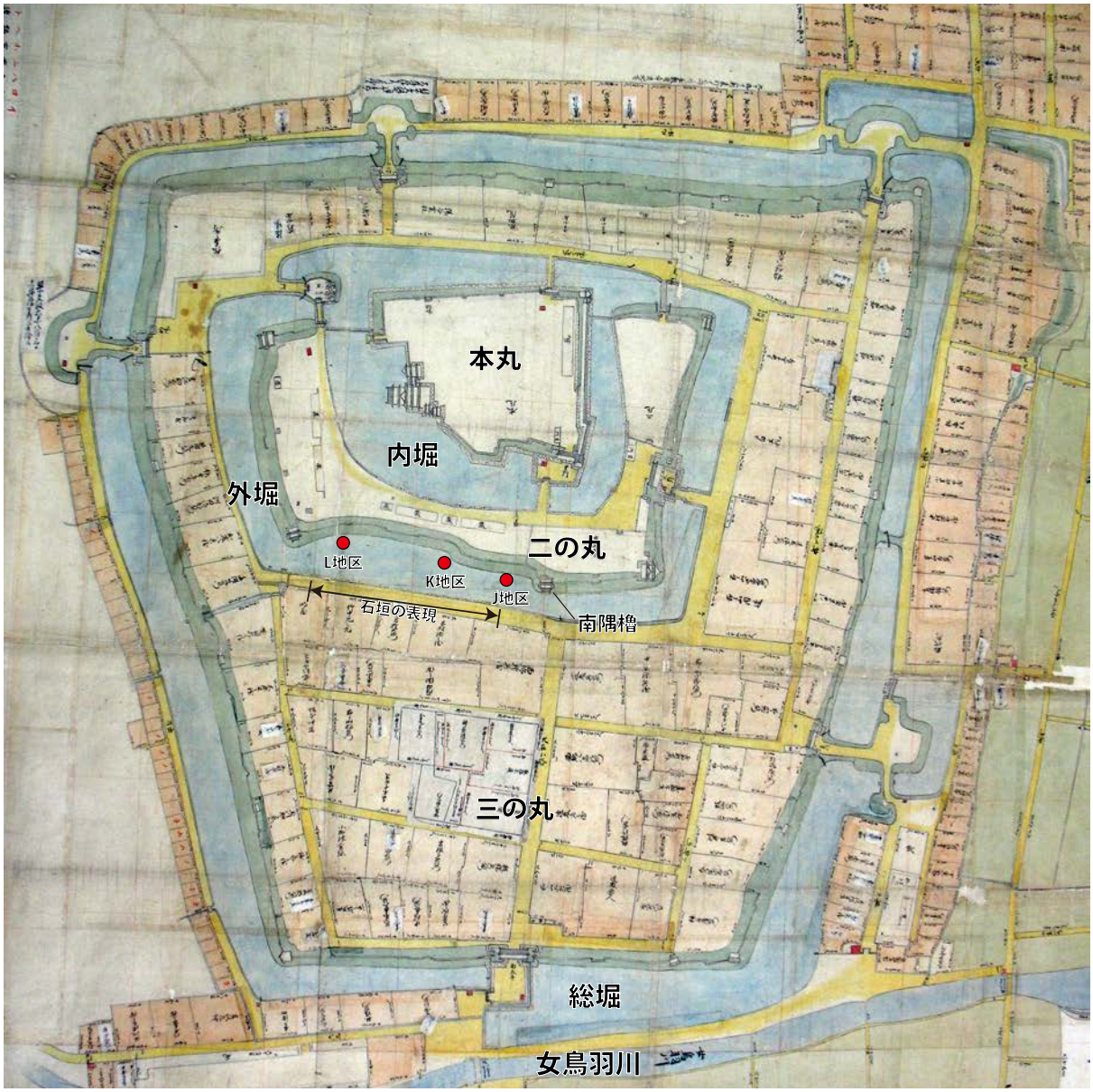


図４　『享保十三年秋改松本城下絵図』でみる外堀の位置（一部、加筆、松本市教育委員会所蔵）

写真１　A 地区でみつかった石垣

写真２　I 地区でみつかった土塁の裾部

写真３
Ｊ地区の全景（上が北）

調査区は、現在、二の丸公園南側の一段下がった場所で、絵図と都市計画図の重ねから、外堀の縁と推定されます。

写真４
Ｊ地区で出土した多量の瓦

杭列を覆うように多量の瓦が廃棄されていることがわかりました。鬼瓦の一部と考えられるような特殊な瓦も含まれていることから、近くにあった南隅櫓に葺かれていた瓦の可能性があります。

写真５
Ｊ地区で出土した杭列

調査区の北端で杭列がみつかりました。総堀での調査事例から、堀の縁に設置されたものと考えられ、護岸や防御のための機能が想定されます。

写真６
K 地区で出土した杭列

調査区の北端で杭列がみつかりましたが、J 地区とは異なる軸線で杭が設置されていました。おそらく、蛇行していた土塁の形状に合わせるように、杭列が配置されたもの考えられます。

写真７
K 地区で出土した石列

杭列のすぐ南側で､2 段（以上か）に積まれた石列がみつかりました。出土遺物や石の加工具合から、明治時代以降に構築されたものと考えられます。

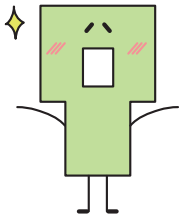
写真８
L 地区の杭列

調査区の北端で明治時代以降に土留めのために打ち込まれた杭がみつかりましたが、J・K 地区でみられるような江戸時代の杭列は確認できませんでした。これは、堀の縁がさらに北側にあることを示唆していると推測できます。

史跡弘法山古墳 第３次発掘調査

ー半世紀ぶりに３世紀のまつもとの王墓の墳丘を探るー

小山　奈津実



1　調査の概要

⑴　遺跡の所在：松本市並柳２丁目、松本市神田２丁目

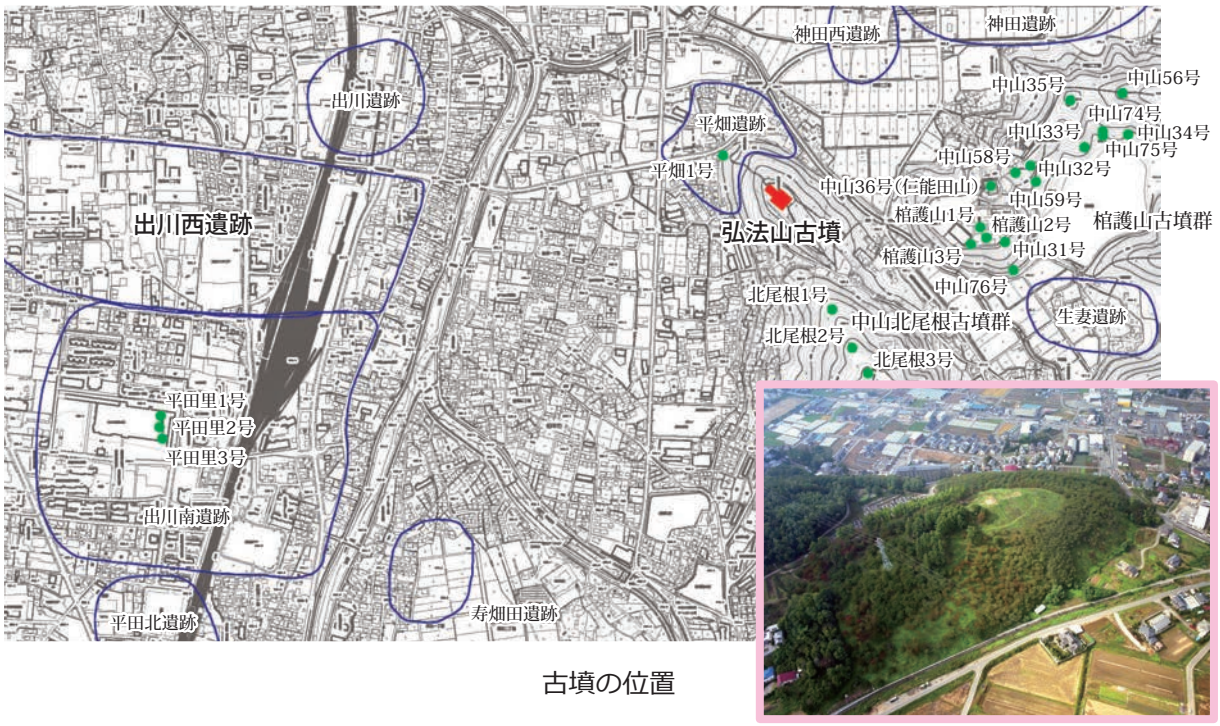
⑵　調 査 目 的：史跡弘法山古墳再整備事業

⑶　調 査 期 間：令和３年６月８日～継続中

⑷　調 査 面 積：約 50 ㎡

2　遺跡の概要

弘法山古墳は松本市東部にある中山丘陵の北端に立地する全長約 66mの古墳で、3 世紀末の築造と考えられています。丘陵の先端部に古墳があることは以前から知られていましたが、明治以降に畑地になっていたこと、第二次世界大戦の末期に高射機関銃が設置されていたことなどから、昭和 49 年に発掘調査が実施されるまで、大半が破壊されてしまった古墳であると認識されていました。発掘調査は学校の運動場建設に先立って実施され、調査の結果、弘法山古墳は東日本最古級の前方後方墳であることが分かりました。その後、昭和 51 年に国史跡に指定され、昭和 57 年には史跡公園として整備が行われ、現在は桜の名所としても親しまれています。



古墳の位置

3　昭和 49 年の調査成果

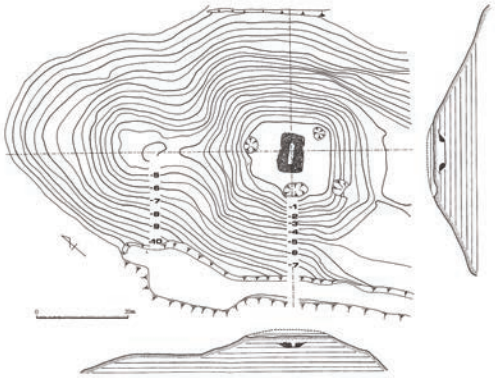
⑴　墳丘

【墳　　形】前方後方墳

【墳 丘 長】約 66m

【外表施設】石列を確認（葺石となるかは不明）
埴輪は未確認

【築造年代】3 世紀末



弘法山古墳 墳丘実測図

⑵　埋葬施設

埋葬施設は長さ 5.5m、幅 1.32m、深さ 0.93mの竪穴式石室状の礫槨で、後方部の中央に主軸とほぼ直交するように位置しています。礫槨を構築する石は河原石が用いられており、これらは松本平に集まる複数の河川から運搬されたと考えられます。礫槨内は黒土を入れて固く締めており、天井石は確認されていません。

昭和 49 年の調査で確認した
竪穴式石室状の礫槨

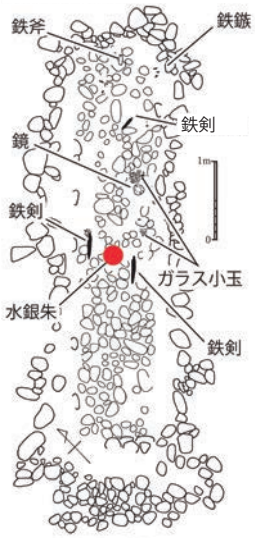
⑶　副葬品

【銅　鏡】上方作系浮彫式獣帯鏡 1 面

【装身具】ガラス小玉（首飾り・手首飾り）738 点

【武　器】鉄剣 3 点、銅鏃 1 点、鉄鏃 24 点

【工　具】鉄斧 1 点、
鉋（木の表面を削って平らに仕上げるための工具）1 点



副葬品の配置

礫槨から出土した銅鏡

面径は 11.65 ㎝で、銘文に「上方作竟自有□青□左白虎居右」とあり、青竜と白虎の 2 対が薄肉彫りで表現されています。銘文から、中国の皇帝直属の工房で製作され、日本に伝来した、舶載鏡であることが分かりました。

⑷　出土土器

礫槨の直上から、壺 10 点、高杯 10 点、器台 2 点、甕 2 点、手焙形土器 1 点などの土器がまとまって出土しました。祭祀などの目的で用いられた可能性が考えられます。これらの土器は東海地方の特徴を有することから、被葬者は東海地方と深い関わりがあった人物であったと推定されます。

弘法山古墳から出土した土器

● 出川西遺跡（いでがわにし） ●

出川西遺跡は、弘法山古墳から西に 1,200mの南松本駅北側一帯に広がる遺跡です。平成 25 年に実施した発掘調査では、古墳時代前期の竪穴住居の壁際から、土器 11 点が 1 ～ 2 列に並べ置かれた状態で出土しました。

出川西遺跡から出土した土器

これらの土器には、松本の特徴を持つものと、東海地方の特徴を持つものの 2 種類がみられました。このことから、出川西遺跡一帯は、弘法山古墳の被葬者が拠点とした集落のひとつであった可能性が考えられます。

4　史跡弘法山古墳再整備事業

⑴　弘法山古墳が抱えている問題

ア　昭和 49 年の調査は埋葬施設を中心とした範囲であったことから、墳丘の正確な形態や規模、葺石などの外表施設や周辺遺構などの解明が不十分である。

イ　弘法山古墳と周辺にある古墳群や集落との関連の解明が不十分である。

ウ　昭和 57 年の整備以降、本格的な整備を実施していないことから、整備や保存活用を図る必要がある。

↓

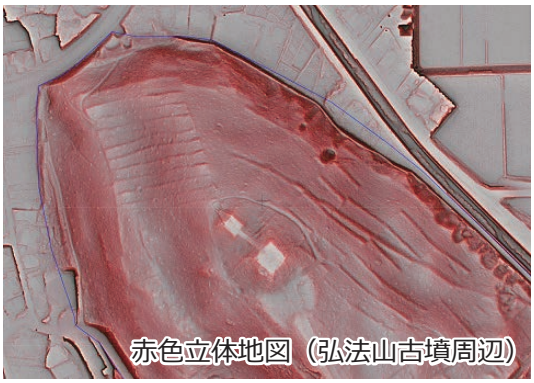
発掘調査などによって弘法山古墳の学術的な価値を明らかにした上で、整備や保存活用を図り、弘法山古墳の魅力を伝えたい。

⑵　整備に向けて実施している内容

ア　赤色立体地図の作成：地形測量による弘法山古墳及び周辺の古墳分布の確認

イ　弘法山古墳の発掘調査：古墳の形態や規模などの確認

ウ　関連古墳群の調査：弘法山古墳に後続する周辺古墳群の調査（東海大学と連携）

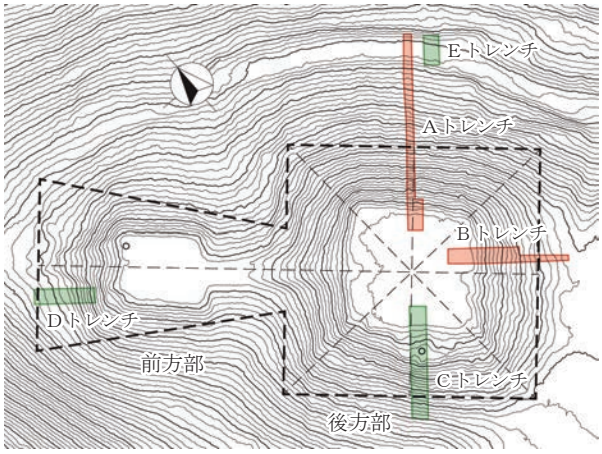


赤色立体地図（弘法山古墳周辺）

中山 56 号墳の測量

5　令和２年度の調査成果

⑴　調査箇所



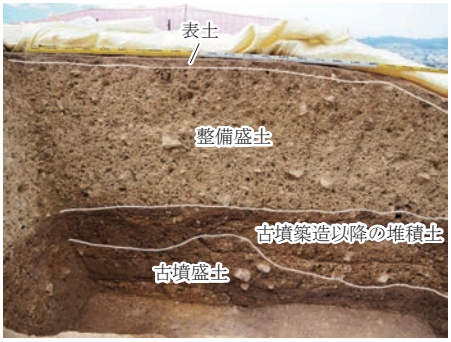
墳丘の規模や外表施設・周辺遺構の有無の確認のために、北東・南東の２カ所でトレンチ（古墳の性質を判断するために掘る溝）調査を実施しました。

発掘調査位置図

- 令和２年度調査トレンチ
- 令和３年度調査トレンチ

⑵　盛土

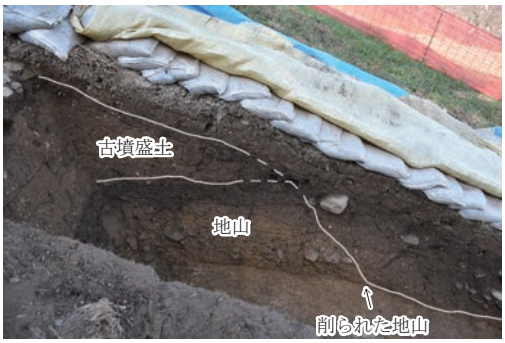
古墳の盛土、古墳の築造後に堆積した土、史跡公園として整備をした際に古墳を保護するために盛った土などを確認しました。古墳の盛土は固く締まっており、丁寧に突き固めて古墳が造られたことが分かりました。



Ａトレンチ墳頂部

⑶　墳裾（ふんすそ）（古墳の端の部分）

裾部の調査から、弘法山古墳は地山（じやま）（土地の基盤となる土層）を削って整形してから土を盛っていることが判明しました。この地点は後方部の中心から 16 ～ 17mになります。



Ａトレンチ裾部

地山が斜めに削られています。

⑷　集石

Ｂトレンチの、墳丘の外側にあたる位置から、10 ～ 20 ㎝程度の石がまとまって確認されました。この石は角礫だけでなく円礫も含まれていることから、河川から持ち込まれた可能性が考えられます。出土位置から、葺石が崩落したものの可能性がありますが、詳細は不明です。

Ｂトレンチで確認した石

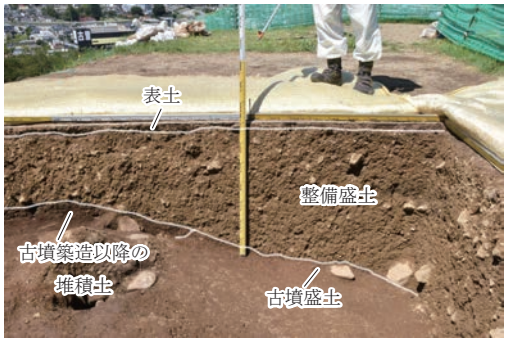
6　今年度の調査成果

⑴　調査箇所

後方部の南西・北東、前方部の北西の 3 カ所にトレンチを設定し、調査を実施しました。調査では、墳丘の規模や外表施設・周辺遺構の有無の確認（C・D トレンチ）、昭和 49 年調査トレンチの状況確認（E トレンチ）を目指しています。（位置は前頁参照）

⑵　盛土

C トレンチの墳頂部では、史跡公園として整備をした際に古墳を保護するために盛った土の下で、古墳の盛土を確認しました。昨年度のものと同様に、古墳の盛土は丁寧に突き固められています。



C トレンチ墳頂部

古墳盛土が写真右に向かって落ち込んでいるのは、昭和 49 年の調査の際に、石混じりの猪土手（ししどて）（野生動物から農作物を守るために築いた土手）を除去した痕跡と推定されます。

⑶　墳裾

C・D トレンチともに、現段階で裾部の確認はできていません。引き続き調査を進め、裾部の確認を目指します。

⑷　集石

C トレンチの上方・下方では、5 ～ 20 ㎝程度の角礫・円礫がまとまって確認されました。葺石などの古墳に関わる石となるかは現段階で不明のため、引き続き調査を進めます。

C トレンチ上方で確認した石

昭和 49 年の調査で、高射機関銃台座によるくぼみが確認された箇所からまとまって石が確認されました。昭和 49 年以降に堆積したものと考えられます。

C トレンチ下方で確認した石

広範囲で石が確認されました。古墳に関わる石となるかは現在調査中です。

● 地中レーダー探査 ●

東海大学考古学専攻研究室の調査・研究として、弘法山古墳の地中レーダー探査を実施していただきました。

⑴　地中レーダー探査とは

電磁波を地中に向けて放射して、埋設物などから跳ね返ってくる反射波を分析することによって、地中の状況を探査する方法です。掘削を伴わない調査方法のため、埋蔵文化財の調査では、発掘調査の事前調査や、掘削ができない範囲の状況把握などのために実施されます。

⑵　地中レーダー探査により分かること

①　埋設物（石など）や空洞などによる遺構の様子

②　各地層の境界や土の締め固めの状態

⑶　今回の調査目的

①　遺構（石や空洞）の位置の確認

②　昭和 49 年調査トレンチの範囲確認

測量機器

作業の様子

7　まとめ

⑴　古墳の盛土は一部の範囲で確認をしています。盛土は昨年度と同様に、土を丁寧に突き固めていることが分かりました。

⑵　古墳の規模を決定するための裾部は、現段階で確認されていません。今年度の調査で裾部の確認ができると、昨年度の調査成果と合わせて、弘法山古墳の全長及び後方部の幅が判明するため、引き続き調査を進めます。

⑶　葺石の有無は現段階で明らかにできていません。河川から持ち込まれた可能性が考えられる石が多量に確認されていることから、引き続き調査を実施し、検討を進めます。

⑷　周辺遺構は現段階で確認されていません。

弘法山古墳は来年度も発掘調査を実施し、
古墳の基本的なデータを集め、再整備に向けての準備を進めていきます。

発掘された松本2021
報告例 ⑤

真光寺遺跡

ー波田地区で初　古墳を発見！ー

長野県埋蔵文化財センター
春日　皓介

1　調査の概要

⑴　遺跡の所在：松本市波田 1718- 1ほか
⑵　調 査 目 的：一般国道 158 号（松本波田道路）改築工事
⑶　調 査 期 間：令和３年４月 12 日～ 12 月 10 日
⑷　調 査 面 積：6000 ㎡
⑸　主 な 遺 構：古墳、掘立柱建物跡、溝跡、柵列跡、火葬施設跡、土坑　等
⑹　主 な 遺 物：縄文土器、須恵器、内耳土器、打製石器、石鏃、鉄製品、銭貨　等

2　遺跡の概要

真光寺遺跡は、アルピコ交通上高地線の三溝駅から北東約 300m に位置し、梓川右岸の河岸段丘上の２段目（森口面）に立地しています。（図１）この面には上野遺跡、葦原遺跡、波田下島遺跡などの集落跡（縄文時代、奈良時代、平安時代、中世）が分布します。また、遺跡の近くには大井郷の開発に携わった富豪層を葬ったとされる８世紀の安塚古墳群や秋葉原古墳群があります。また、調査区の東側に和田堰、西側に神林堰、北側に新村堰があり、これら三つの堰が三溝の由来となりました。（波田町誌編纂委員会 1987）また、調査区西側には弘治３（1557）年に復興されたという真光寺が所在します。

令和３年の松本市教育委員会による試掘調査では、「和田堰跡」と推定される溝跡や、真光寺に関連する可能性が考えられる石列、穴跡、整地層が確認されました。

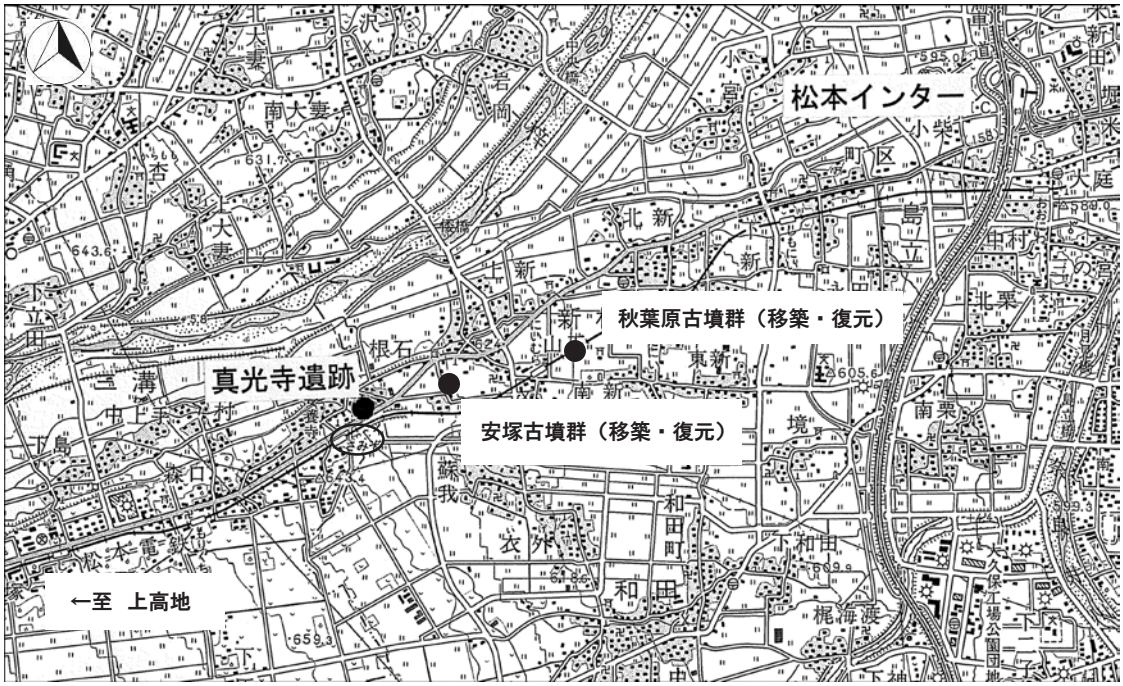


図１　真光寺遺跡の位置（○：アルピコ交通三溝駅 ）

3　今年度の調査成果

図２　今年度の調査区

今年度の発掘調査は、４ヶ所の調査区（第１～４）を認定して行いました。（図２）表土を剥いだ砂礫層で検出を行い、さまざまな遺構や遺物を発見しました。

【第１調査区】

⑴　溝跡

調査区東側より、現和田堰のもととなったと考えられる溝跡 SD01 と、それに並行する溝跡 SD02 を確認しました。（図３）溝跡に伴う遺物は発見できず、年代は明確にはなりませんでした。

図３　溝跡と古墳（SM01）

⑵　古墳

旧波田町内で初めての古墳 SM01（以下古墳）が発見されました。（図４）古墳は、墳丘と石室の上部が削平された状態で確認され、墳丘の規模は南北約 12 m、東西約 11.5 m、石室の高さは残存高約 0.7 mでした。墳丘には、葺石が巡らされており、周溝も確認できました。

図４　古墳（SM01）全景

ア　石室

横穴式石室を埋葬施設としており、使用された石材は梓川でみることができる、花崗岩や砂岩などの石材を使用しています。石材は楕円形であるため、積みあげる際に石材同士の接地面が少なく、隙間が生じます。それを小礫や土で充填し、平らにしているなどの工夫がみられました。

また、石室からは袖石や框石があったと考えられる浅い溝や土坑等を確認しました。（図６、７）それらによって、石室の奥から入口にかけて、玄室（図５①）、前室（同②）、羨道（同③）の３つの空間に区切られていました。

図５　複室構造の石室

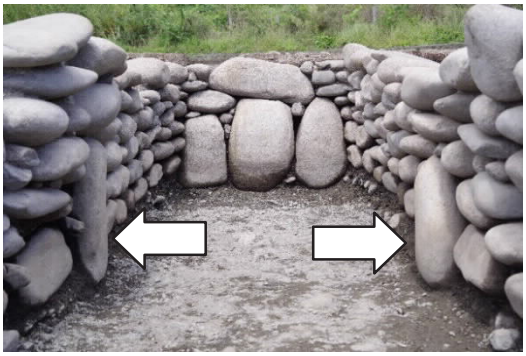


図６　矢印は袖石

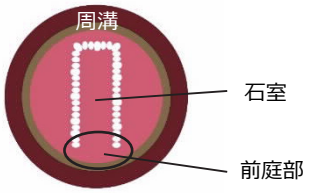


図８　古墳模式図

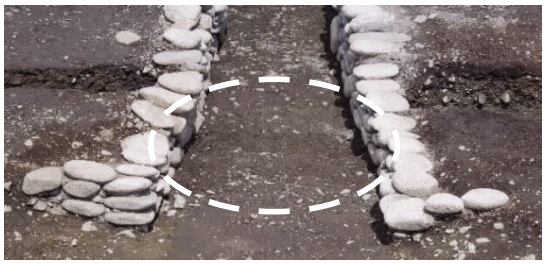


図７　：框石跡・袖石跡か

イ　遺物

古墳の前庭部からは、須恵器が出土したほか、石室内からは鉄鏃などの鉄製品が出土しました。

ウ　時期と位置づけ

古墳の築造年代を推定すると、古墳から出土した須恵器は、７世紀末～８世紀初頭のものと推定されます。また、石室の構造が類似している安塚古墳群や秋葉原古墳群はいずれも８世紀初頭頃に築造されたと考えられています。このことから、この古墳は７世紀末～８世紀初頭に位置づけられると考えられます。この時期は全国的に古墳が造られなくなるため、珍しい古墳といえます。

【第３調査区】

東西方向にのびる溝跡と土坑を検出しました。

【第２・第４調査区】

⑴　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、柱穴の配列と東西南北1.８ｍの２間×２間の柱間隔となることを確認しました。また、来年度調査区も含めた建物の可能性もあります。（図９）

＊１間＝６尺＝1.81818…ｍ（彰国社 1976）

図９　掘立柱建物跡（ST02）

⑵　柵列跡

柵列跡 SA01 は、溝跡内に約 0.7 mから 1.8 m間隔で柱穴が並んでいることを確認しました。（図 10）

遺構の切り合い関係から「永楽通寶」が使用された時期よりは、古い遺構であると考えられます。　＊永楽通寶…初鋳年 1408（永楽６）年（瀧澤 他 1999）

図 10　柵列跡（SA01）（矢印は柱穴）

図 11　土坑（SK127）より出土した永楽通寶

⑶　火葬施設跡

火葬施設跡とみられる遺構は、７基みつかりました。なかでも、４区の南西隅で比較的良好な状態で２基残されていました。火葬施設跡は隅丸方形や円形で、焼土、炭化物、焼骨を伴なっていました。SX12（図 12）では、６枚の銭貨が出土したほか、SX13（図 13）では炭化物が良く残っており、井桁状に木材が組まれていたような状況も確認できました。

図 12　火葬施設跡（SX12）

図 14　銭貨出土状況

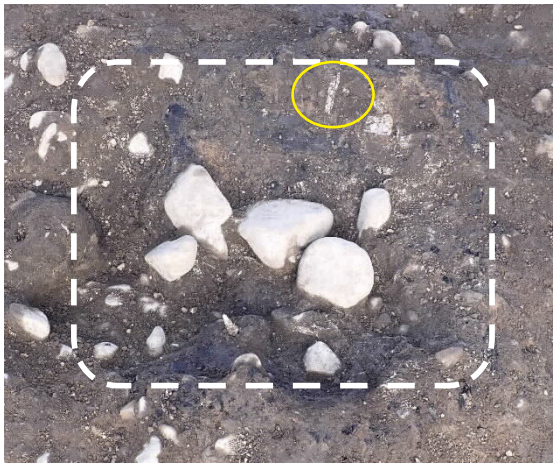


図 13　火葬施設跡（SX13）　○：焼骨

４　来年度調査の課題

＜古墳＞

・調査区内で古墳が存在するか確認します。

・松本市新村地区では、安塚古墳群や秋葉原古墳群でも真光寺遺跡で発見された古墳と類似する石室を持つ古墳が確認されています。直接的な関係を示す遺物は出土していませんが、石室の類似点を含め、検討していきます。

＜火葬施設跡＞

・来年度調査区は、真光寺遺跡西側、現在の真光寺周辺になります。

・長野道建設に伴う発掘調査により、北栗遺跡や北中遺跡などで火葬施設跡がみつかっており、出土遺物などから中世のものとされています。そのため、真光寺遺跡の火葬施設跡は、これらと規模や形状が類似している点から中世のものではないかと考えられます。今年度は、詳細な時期が特定できなかったので来年度の調査で明らかにしていきます。

＜土地利用＞

・掘立柱建物跡や火葬施設等は、現在の真光寺付近から多く確認しました。真光寺遺跡が、どのような土地利用のもと形成されていったのか、その検討を含め調査していきます。

【参考文献】

彰国社 編 1976『建築大辞典』 440 頁

波田町誌編纂委員会 1987『波田町誌』歴史時代編　波田町教育委員会　104 ～ 105 頁

日本道路公団名古屋建設局　長野県教委育委員会（財）長野県埋蔵文化財センター　1989「第２章　北中遺跡」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書　10』

日本道路公団名古屋建設局　長野県教委育委員会（財）長野県埋蔵文化財センター　1990「北栗遺跡　本文編」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書　８』

瀧澤武雄 西脇康　編 1999『日本史小百科』〈貨幣〉東京堂出版　185 ～ 187 頁